

| |
|------|
| 受験番号 |
| |

2026 年度
新潟青陵大学大学院臨床心理学研究科
入学試験（一次募集）問題
『一般選抜』

「英語」

試験の受け方について

- 1 試験開始の合図があるまでは、この冊子を開いてはいけません。
- 2 電子辞書以外の語学辞書（英和一冊）の使用を許可します。
- 3 この冊子は1～5ページまでとなっています。
- 4 解答はすべてこの冊子の解答欄に記入してください。
- 5 試験時間は90分です。
- 6 印刷が不明瞭な場合のほかは、問題について質問は受けません。
- 7 不正な行為があった場合は、解答はすべて無効となります。
- 8 試験終了時にこの冊子および下書き用紙を提出してください。
- 9 すべての受験番号欄に受験番号を記入してください。

| 受験番号 | 合計得点 |
|------|------|
| | |

問題1 以下の英文を読み、設問1～4に答えなさい。

If our focus of attention is upon the self, we must clearly move from the cultural level of analysis to the individual level of analysis. A recent seminal contribution towards psychologizing about culture's impact on the self was made by Markus and Kitayama. They drew the distinction between an (ア)independent conception of self fostered by many individualistic cultural systems and an interdependent conception of self fostered by many collective culture systems.

(イ)The perception of oneself as an independent agent has been a major emphasis in the life of Western industrial nations in recent times. Values such as freedom and self-determination are highly esteemed and many members of these nations will, if asked, characterize themselves as possessing traits and abilities, such as intelligence, friendliness, modesty or what you will. It is by no means certain that this was always so. In mediaeval times, the word 'individual' had a decidedly different meaning in the English language. It was used to refer to each of the members of the Trinity, that is to say God-the-Father, God-the-Son and Holy Spirit. (ウ)In other words, in the religious imagery that was predominant at the time, an individual was not a separate entity, but was indissolubly linked to others, whose identity was collectively defined.

More recent Western conceptions of the individual as being in some way autonomous or separate from the social context parallel the type of analytic thinking that has been highly valued since the time of Descartes in Western countries. This way of thinking often polarizes pairs of concepts as a basis for construing the world. Frequently used concept pairs in social psychology would include: self/others, individual/group, leader/follower, environment/heredity and of course individualism/collectivism. An instance of the way in which this type of thinking finds a ready home within Western psychology is provided by the widespread use of versions of the semantic differential questionnaire, in which subjects are asked to evaluate themselves or others on a series of (エ)bipolar rating scales.

(出典：Smith, P. B. & Bond, M. H. (1998) "Social Psychology Across Cultures." 2nd ed. Allyn & Bacon)

設問1 (ア) の independent と対義語になる語句として文中で使用されているものを、以下の①～④の中から1つを選択し、記号で答えなさい。

- ① interdependent ② collective ③ individual ④ culture

(ア) _____

設問2 下線部(イ)を日本語に訳しなさい。

設問3 下線部(ウ)を日本語に訳しなさい。

設問4 下線部(エ)の例をひとつ、文中から選んで書きなさい。日本語に訳す必要はありません。

(エ) _____

| 受験番号 | 問題1 得点 |
|------|--------|
| | |

問題2 以下の英文を読み、設問1~6に答えなさい。

Now I shall discuss an important feature of playing. This is that in playing, and perhaps only (ア) playing, the child or adult is free to be creative. This consideration arises in my mind as a development of the concept of transitional phenomena and it takes into account the difficult part of the theory of the transitional object, (イ) is that a paradox is involved which needs to be accepted, tolerated, and not resolved.

A further detail of theory that has importance here is described as having to do with the location of (ウ), a theme I have developed in Chapter 3, 7, and 8. The important part of this concept is that whereas inner psychic reality has a kind of location in the mind or in the belly or in the head or somewhere within the bounds of the individual's personality, and whereas what is called (エ) reality is located outside those bounds, playing and cultural experience can be given a location if one uses the concept of the potential space between the mother and the baby. (オ)In the development of various individuals, it has to be recognized that the third area of potential space between mother and baby is extremely valuable according to the experiences of the child or adult who is being considered. I have referred to these ideas again in Chapter 5, where I draw attention to the fact that a description of the emotional development of the individual cannot be made entirely in terms of the individual, but that in certain areas, and this is one of them, perhaps the main one, the behaviour of the environment is part of the individual's own personal development and must therefore be included. As a psychoanalyst I find that these ideas affect what I do as an analyst without, as I believe, altering my adherence to the important features of psychoanalysis that we teach our students and that provide a common factor in the teaching of psychoanalysis as we believe it to be derived from the work of Freud.

I am not involved by deliberate intention in the comparison of psychotherapy with psychoanalysis or indeed in any attempt to define these two processes in such a way that would show up a clear line of demarcation between the two. (カ)The general principle seems to me to be valid that *psychotherapy is done in the overlap of the two play areas, that of the patient and that of the therapist. If the therapist cannot play, then he is not suitable for the work. If the patient cannot play, then something needs to be done to enable the patient to become able to play, after which psychotherapy may begin.* The reason why playing is essential is that it is in playing that the patient is being creative.

(出典 : Winnicott, D. W. (1971) "Playing and Reality" Tavistock Publications Ltd)

設問 1 (ア) に当てはまる最も適切な語句を以下の中から 1 つ選び、①～④の記号で答えなさい。

- ① of ② at ③ in ④ throughout

(ア) _____

設問 2 (イ) に当てはまる最も適切な語句を以下の中から 1 つ選び、①～④の記号で答えなさい。

- ① when ② which ③ where ④ what

(イ) _____

設問 3 (ウ) に当てはまる最も適切な語句を以下の中から 1 つ選び、①～④の記号で答えなさい。

- ① work ② activity ③ playing ④ creativity

(ウ) _____

設問 4 (エ) に当てはまる最も適切な語句を以下の中から 1 つ選び、①～④の記号で答えなさい。

- ① external ② true ③ internal ④ false

(エ) _____

設問 5 下線部 (オ) を日本語に訳しなさい。

設問 6 下線部 (カ) を日本語に訳しなさい。

| 受験番号 | 問題 2 得点 |
|------|---------|
| | |

2026 年度
新潟青陵大学大学院臨床心理学研究科
入学試験（一次募集）問題
『一般選抜』

「臨床心理学」

試験の受け方について

- 1 試験開始の合図があるまでは、この冊子を開いてはいけません。
- 2 この冊子は1～9 ページまでとなっています。
- 3 解答はすべて別紙「解答用紙」に記入してください。この冊子に記入されたものは、採点の対象にはなりません。
- 4 試験時間は90分です。
- 5 印刷が不明瞭な場合のほかは、問題について質問は受けません。
- 6 不正な行為があった場合は、解答はすべて無効となります。
- 7 試験終了時に問題冊子・解答用紙・下書き用紙を提出してください。
- 8 すべての受験番号欄に受験番号を記入してください。

| |
|------|
| 受験番号 |
| |

問題1 以下の（ ）にあてはまる最も適切な語句を解答欄に記入しなさい。

1. Tolman, E. C.は、学習における内的過程を重視し、報酬がなくても形成される（ ）学習の概念を提唱した。
2. ウェーバーの法則に基づくと、40g の標準刺激において弁別閾が1g であるならば、標準刺激が80g となった場合、弁別閾は（ ）となる。
3. 作業記憶モデルにおいて、中央実行系の制御下にあり、言語情報や音声情報を保持する記憶貯蔵庫は（ ）ループと呼ばれる。
4. 神経細胞間の情報伝達は、シナプス間隙に放出される（ ）によって行われる。
5. Piaget, J. の認知発達理論における具体的操作期では、保存課題に正答できるようになるが、まだ（ ）的思考が困難である。
6. 古典的条件づけにおいて、条件反応が形成されたのちに、無条件刺激は呈示せず、条件刺激のみを呈示することにより生じる反応の減退を（ ）という。
7. 意識的に想起できる記憶である陳述記憶は、意味記憶と（ ）に分類される。
8. アンダーマイニング効果とは、内発的動機づけが（ ）報酬によって低下する現象である。
9. Ebbinghaus, H. の忘却曲線の実験では、（ ）音節を用いて記憶保持の時間経過による変化が示された。
10. 視覚野（一次視覚皮質）は脳の（ ）葉に位置している。
11. Goldberg, L. R. による Big Five は、外向性、（ ）、開放性、協調性（調和性）、勤勉性（誠実性）の5つの特性で構成される。
12. 系列位置効果において、最初の項目の記憶成績が良好になる効果を（ ）効果と呼ぶ。
13. ストレス学説で知られる Selye, H. は、身体のストレス反応を汎適応症候群（GAS）として警告反応期・抵抗期・（ ）期に分けた。
14. 絶対閾とは、感覚刺激が（ ）される最小の強度を意味する。
15. 短期記憶に保持できる情報の量は、約（ ）チャンクとされる。

16. 他者の存在によって、作業量が増加したり、作業速度が速まったりする現象（ ）という。
17. 情報処理の方式の一つで、個々の要素や詳細な情報から全体像を把握しようとする方法を（ ）処理と呼ぶ。
18. 援助行動において、集団の中にいると責任が分散されて行動が鈍くなる現象を（ ）効果という。
19. Erickson, E. H. の発達理論では、青年期の課題は 同一性 対 （ ）である。
20. Bandura, A. によると観察学習が成立するには、注意過程・保持過程・行動生産過程・（ ）過程の4段階が必要とされる。

問題2 心理学の研究法、統計に関する以下の設問1~2に解答しなさい。

設問1 以下の（ ）にあてはまる最も適切な語句または数値を解答欄に記入しなさい。

1. 以下の心理テストの得点における中央値は、（ ）である。
42, 37, 45, 38, 40, 87, 36
2. 分散分析における帰無仮説は、「すべての群の平均は（ ）」である。
3. パラメトリック検定とは、データが特定の（ ）であることを仮定した検定である。
4. カイ二乗検定は、カテゴリーデータや（ ）尺度の分析に適している。
5. 複数の研究結果を統計的に統合・分析し、全体的な傾向を導き出す手法を（ ）分析という。
6. 分散が100の場合の標準偏差は（ ）である。
7. 心理学の研究では、p値が（ ）未満であれば、統計的に有意とみなすことが一般的である。
8. 縦断的な研究で用いられる同一年代で生まれた一群の世代の集団を（ ）と言う。
9. 尺度水準のうち、「大小関係」に加えて「間隔の等しさ」が保証されているが「絶対的な（ ）」がないものを間隔尺度という。
10. 研究において、原因となる変数を（ ）変数といい、結果として現れる変数を従属変数という。

設問2 「相関関係がある」と「因果関係がある」ことは同義ではない。この違いについて、具体的な例をあげて説明しなさい。解答は解答欄に記入すること。

問題 3 以下の設問 1～4 に答えなさい。

設問 1 犯罪者の再犯リスク評価における静的リスク要因と動的リスク要因について、解答欄内に簡潔に説明しなさい。

設問 2 家族ライフサイクル論について、解答欄内に簡潔に説明しなさい。

設問 3 職務満足を生み出す要因について、Herzberg, F.の二要因説の観点から解答欄内に簡潔に説明しなさい。

設問 4 学習成績の規定要因について、適性処遇交互作用（ATI : Aptitude-Treatment Interaction）の観点から解答欄内に簡潔に説明しなさい。

問題 4 心理療法の中で用いられる以下の(1)～(3)の技法について、設問 1～3 に答えなさい。解答は解答欄に記入すること。

(1) 自由連想法 (free association method)

(2) 暴露療法 (exposure therapy)

(3) 箱庭療法 (sandplay therapy)

設問 1 それぞれの技法に最も関連の深い人物を以下の選択肢から選びなさい。

(ア) Adler, A.

(イ) Berne, E.

(ウ) Ellis, A.

(エ) Wolpe, J.

(オ) Beck, A. T.

(カ) Freud, S.

(キ) Perls, F.

(ク) Bowlby, J.

(ケ) Fonagy, P.

(コ) Erickson, M. H.

(サ) 森田 正馬

(シ) 河合 隼雄

(ス) 成瀬 悟策

(セ) 中井 久夫

設問 2 それぞれの技法の具体的な実施方法について、簡潔に説明しなさい。

設問 3 セラピストが心理療法の中でそれぞれの技法を導入する場合、そこにどのような意図や狙いが想定されるか、簡潔に述べなさい。

問題 5 以下の設問 1~4 に答えなさい。解答は解答欄に記入すること。

設問 1 TAT (Thematic Apperception Test) に関する次の記述のうち、以下の a~e のうちから最も適切なものを 1 つ選びなさい。

- a. TAT は、受検者に自由記述式の性格質問紙を記入させ、自己認知を明らかにする検査である。
- b. TAT は、特定の刺激語に対する反応を分析して、無意識的な葛藤を明らかにする投影法の一つである。
- c. TAT は、曖昧な図版に対して物語を作らせることで、被検者の欲求や対人関係のパターンを探索する投影法である。
- d. TAT は、主に知的能力の高低を測定する目的で実施される構造化された検査である。
- e. TAT は、行動療法において用いられる認知再構成の訓練プログラムの一部である。

設問 2 あなたは臨床心理士として、35 歳の男性 A さんの知能検査を実施した。主訴は「仕事のスピードについていけない」「最近、覚えることがつらい」というものである。

WAIS-IV の結果は以下のとおりであった：

| 指標 | 得点 |
|-----------------|-----|
| 言語理解 (VCI) | 108 |
| 知覚推理 (PRI) | 105 |
| ワーキングメモリー (WMI) | 83 |
| 処理速度 (PSI) | 79 |
| 全検査 IQ (FSIQ) | 95 |

この結果と主訴から考えられる最も適切な理解として、正しいものを以下の a~e のうちから 1 つ選びなさい。

- a. 全検査 IQ が平均範囲にあるため、知的な問題は認められず、心理的支援は必要ない。
- b. ワーキングメモリーと処理速度の低さは、仕事上の情報処理や注意持続の困難と関連し、業務適応上の困難を生じている。
- c. 言語理解が高く処理速度が低いので、自閉スペクトラム症と診断できる。
- d. 知覚推理と処理速度の差が顕著であるため、視覚障害が背景にあると想定される。
- e. 指標得点にばらつきがある場合は、全検査 IQ の信頼性が高いため、それ以外の指標を参照する必要はない。

設問 3 17 歳の女子高校生 A さんは、母親の勧めで心理相談室に訪れた。最近半年で体重が急激に減少し、現在は身長 160cm で体重は 38kg である。A さんは、「太るのが怖くて、ご飯の量を減らしている」と話すが、やせていることを指摘しても「まだ太って見える」と語る。

学校では成績も良く、几帳面な性格で、毎日欠かさず 1 時間以上の運動を続けている。食事内容について尋ねると、「野菜だけ食べている」「脂っこいものは絶対に食べない」と言い、体重測定や食事の場面で強い不安を訴える。月経は 6 か月前から停止している。

このケースにおける A さんの状態について、最も適切な理解として正しいものを以下の a~e のうちから 1 つ選びなさい。

- a. A さんの主訴は食行動に関するものだが、体重が 35kg を下回っていないため、摂食障害の診断は当てはまらない。
- b. A さんの状態は、神経性過食症の典型例であり、自己誘発性嘔吐や過食行動への対応が優先される。
- c. A さんは神経性やせ症が強く疑われ、身体的リスクが高いため、心理支援と並行して医療機関への紹介を検討することが望ましい。
- d. A さんの食行動の異常は思春期の一時的な自己意識の高まりによって生じる自然な現象であり、経過観察で様子を見るのが最も適切である。
- e. 主訴が本人ではなく母親からの申し出であるため、本人の治療への意欲がない限り、心理的介入は行うべきでない。

設問 4 統合失調症に特徴的な「自己の体験」の障害として最も適切なものを以下の a~e のうちから 1 つ選びなさい。

- a. 自己と他者の区別の明確化
- b. 自尊心の増大と他者による承認
- c. 自己と外界の境界が曖昧になる感覚
- d. 自我による過度の統制
- e. 自己の存在の確信が高まる

問題 6

事例問題（内容非公表）

事例問題（内容非公表）